

海外安全対策情報
(平成29年度第4四半期)

在エチオピア日本国大使館

1. 社会・治安情勢

第4四半期(平成30年1月～3月)の情勢は以下のとおり。

(1) オロミア州、アムハラ州を中心にデモ・暴動が相次いで発生し、死傷者が発生した。また、国内の複数の地域(主にオロミア州)において、反政府活動による道路封鎖やオフィス及び商店の閉鎖が頻発した。この影響により、一時、アディスアベバ市内へのガソリンの供給ストップを懸念した市民らが、給油のためスタンドへ殺到する等の混乱が見られた。また、住民らが暴徒化した地域も多数認められ、治安部隊が鎮圧にあたった。

これらを背景に、2018年2月15日、ハイレマリアム首相(当時)が辞任を表明。翌16日、国家非常事態宣言が発出され、3月2日に人民代表議会下院において可決された。

3月27日、与党EPRDF評議会により、新議長として、アビィ・アハメド氏が選出された。同氏は、4月2日、新首相としても任命されている。

(2) オロモ族とソマリ族の民族間衝突は、両州の州境を中心に続いている。これらの他にも、ガンベラ州やソマリ州においても、民族間衝突による死傷者が認められた。

(3) 当地では、アル・シャバーブが2013年10月にアディスアベバ市内で爆弾テロを計画(未遂)するなどしており、依然としてテロ発生の可能性がある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

当地においては、日本人を含む外国人を狙った強盗や窃盗事件が発生しており、第4四半期においても類似する被害が報告された。主な手口は次のとおり。

(1) 強盗事件

アディスアベバ市内において、強盗事件が発生している。早朝及び夜間に徒歩で移動している際に、背後から首をしめられ、抵抗できない状態に追いやられ、携帯電話や財布を強奪する手口が認められる。

(2) 窃盗事件

アディスアベバ市内において、邦人に対するものも含め、スリが増加して

いる。犯行手口の一例としては、複数名が歩行者に近づき、雑誌等を売る素振りや、服に唾や液体をかける、腕をつかむ等して一人が気を引いている間に、他の者が歩行者のポケットから携帯電話機や財布を盗む手口が認められる。犯人は一見して少年風など、若年層が多いと報告されている。

ミニバス(乗り合いタクシー)乗車中も、隣の乗客が液体を浴びせる等し、気を引いている内に携行物を盗んだ上で、社内清掃を装い被害者のみ降車させ、ミニバスごと逃走する事案が認められる。

(3) ぼったくり事件

アディスアベバ市内において、邦人に対するものも含め、ぼったくり被害が発生している。旅行者が滞在ホテル周辺を徒歩で移動していると、エチオピア人が「自分はこのホテルの関係者だが、いい飲食店を教えようか。」と近づき、「ホテルの関係者」と言われて安心し、勧められた飲食店に入って注文すると、高額の支払いを請求される手口が認められる。

3. 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 殺人

邦人被害の届け出はない。

(2) 強盗等

邦人被害の届け出はない。

邦人から凶悪犯罪被害の届出はないものの、依然としてスリや盗難被害については多数の届出を受けている。前段2(1)～(3)の手口を十分認識し、特にスマートフォンや財布の携行管理には十分な注意が必要である。

4. テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件の発生は認知していない。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の届出はない。

6. 自然災害発生の事例

国内において大きな災害は発生していない。

7. 対日感情

対日感情に係る問題は認知していない。

8. 日本企業の安全に係わる諸問題

現在、日本人を標的としたテロ行為は確認されていないが、市民の反政府運動や民族間衝突が国内各地で断続的に発生しており、鎮圧のために治安部隊が投入された場合、銃撃となる可能性が高いため、車両移動中においても常に周囲への注意が必要である。

これらに巻き込まれた場合、道路封鎖による陸路の寸断や投石・銃撃による、身体への受傷事故が懸念される。

国家非常事態宣言の影響により、国内各地で不定期的にインターネットの遮断が認められるため、渡航の際は事前の情報収集が必要である。